

Q & A

Macour

Q 選手のコメントを聞いていると「プロペラに焼きを入れる」と話していました。焼きを入れるとは具体的にどのような作業ですか？

たしか、焼きを入れるために必要なバーナーのような設備はピットにはないと聞いたような気がします…。
上瀧命(愛知県)

A 焼きを入れるのは、持ちペラ時代のようにバーナーで熱して伸ばすような作業ではありません。プロペラは金属ですが、特に新しいものは柔らかく、レース後に形が変わることがあります(選手が「プロペラが開く」とコメントしてたりします)。変形を防ぐためにオーブンのような電気炉にプロペラを入れて焼くことを「焼きを入れる」と表現しています。焼きを入れると硬くなるものの、焼きすぎるとプロペラが割れやすくなるんだとか。



焼きを入れるための電気炉



焼いた後は水に入れて一気に冷やす

Q 選手の定員が増えるとのことですが、やはり選手の出走回数も増えていくということでしょうか。
I.T.兄弟(岡山県)

A 昨年度(2024年度)は全国で過去最多の4623日開催し、約5万5000レース行われました。5年前(19年度)は4564日開催、約5万4000レース、10年前(14年度)は4397日開催、約5万2000レースの実施。年々開催日数が増えていることがわかると思います。それを回すための選手が必要となるため、選手の定員を1600人から1630人へと増やすことが決まりました。それによって4期通算勝率における退会勧告(引退)が一時的に停止することとなったのです。

Q F休みの選手は休みの時に練習やプロペラ叩き、モーター整備などをできるのでしょうか？ 休み明けぶっつけ本番で挑むのだろうか。

いちかばちか(三重県)

A もちろん休みの間に練習することは可能です。練習日が設けられていたり、レース開催中の合間に練習できたりと支部ごとに環境は様々です。練習用であれば、プロペラを叩いたりもできます。



ボートレース常滑にある愛知支部選手用のペラ小屋。プロペラ道具も一式揃っている